

鋼板製外壁構法標準 SSW2011 正誤表

① 仕様選択ルートの対象製品範囲」の山高寸法の訂正

P45・表 2.4. 仕様選択ルートの対象製品範囲の山高区分「25」と「30」の山高寸法を以下の通り訂正する。

表 2.4.1 仕様選択ルートの対象製品範囲

	山高区分	山高寸法(mm)	
角波 (小型)	05	4.0 以上 7.5 未満	
	10	7.5 以上 12.5 未満	
角波 (一般)	15	12.5 以上 17.5 未満	
	20	17.5 以上 22.5 未満	
	25	22.5 以上 27.5 未満	→ 22.5 以上 28.0 未満
	30	27.5 以上 35.0 未満	→ 28.0 以上 35.0 未満
	40	35.0 以上 42.5 未満	

以下の該当箇所も同様に読み替える。

#P27 解説(2)仕様選択ルートによる設計

→外壁材の山高が、12.5 mm以上 28.0 mm未満であること。

#P44 2.4.1 対象 本文(3)

→(3)外壁材の山高は、12.5 mm以上 28.0 mm未満であること。

#P46 表 2.4.3

→山高が 22.5 mm以上 28.0 未満の場合の標準仕様

#P48 表 2.4.4 外壁材の耐力試験で対象とした山高と山ピッチ

→山高区分 22.5 以上 28.0 未満

#P49 表 2.4.7 耐風圧性試験で耐用と下山高と山ピッチ

→山高区分 22.5 以上 28.0 未満

#P124 付表 1.1.5 仕様選択ルート適用のための条件

→ 山高 12.5 mm以上 28.0 mm未満

#P128 付表 1.2.8 仕様選択ルート適用のための条件

→ 山高 12.5 mm以上 28.0 mm未満

② P60、2.5.4 式、2.5.5 式の訂正

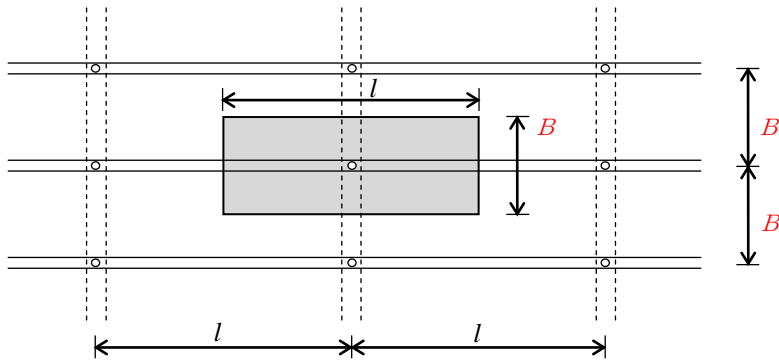
以下の式に「 b =壁材の幅」を追加する。

$$2.5.4 \text{ 式 } M_{\max} = \frac{1}{8}wl^2 \rightarrow M_{\max} = \frac{1}{8}wl^2b$$

$$2.5.5 \text{ 式 } \delta_{\max} = \frac{5wl^4}{384EI} \rightarrow \delta_{\max} = \frac{5wl^4b}{384EI}$$

③ P71、「図 2.5.10 接合部1ヶ所あたりの負担面積」の訂正

図中に「 B : 固定ねじ留付け間隔」を追加する



B : 固定ねじ留付け間隔

l : 胴縁間隔

④ P43 最下行

3.4.3 節 出隅及び入隅納めを参照 → 3.4.2 節 出隅及び入隅納めを参照

以 上